

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	実践女子大学
設置者名	学校法人 実践女子学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
文学部	国文学科	夜・通信	46	0	32	78	13	
	英文学科	夜・通信			2	48	13	
	美学美術史学科	夜・通信			56	102	13	
生活科学部	食生活科学科 管理栄養士専攻	夜・通信	46	0	69	115	13	
	食生活科学科 食物科学専攻	夜・通信			50	96	13	
	食生活科学科 健康栄養専攻	夜・通信			53	99	13	
	生活環境学科	夜・通信			55	101	13	
	生活文化学科 生活心理専攻	夜・通信			54	100	13	
	生活文化学科 幼児保育専攻	夜・通信			91	137	13	
	現代生活学科	夜・通信			56	102	13	
人間社会学部	人間社会学科	夜・通信	46	0	28	74	13	
	現代社会学科	夜・通信			28	74	13	
(備考) ・全学共通科目(共通教育科目)、生活文化学科専門科目については、1年は新課程、2~4年は旧課程で記入 ・国文学科専門科目、現代生活学科専門科目については、1・2年は新課程、3・4年は旧課程で記入								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.jissen.ac.jp/life/lesson_and_unit/outline.html

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	実践女子大学
設置者名	学校法人 実践女子学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.jissen.ac.jp/school/about/administrators/index.html

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	株式会社役員	2017年4月 ～ 2020年3月	経営全般
常勤	学校法人役員	2019年4月 ～ 2020年3月	経営企画・広報 総務・人事
非常勤	公益財団法人役員	2018年4月 ～ 2021年3月	ガバナンス改革・ダイバーシティ
非常勤	法律事務所・弁護士	2019年4月 ～ 2020年3月	ガバナンス改革・法務
非常勤	一般社団法人役員	2019年5月 ～ 2022年5月	卒業生との連携
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	実践女子大学
設置者名	学校法人 実践女子学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
シラバスの記載内容については、事前に大学教育研究センター委員会で確認し、決定しています。毎年度のシラバス作成スケジュールについては、6月頃に委員会で確認し、11月から授業担当教員に執筆依頼を行います。執筆依頼の際には、各項目における注意事項を示し、記載内容の充実を図っています。執筆されたシラバスについては、事務局で未記入項目等の簡易的なチェックの後、各授業科目における責任者(学科主任・教務委員等)による第三者チェックを行い、内容・記述等が適正であるか確認し、必要に応じて授業担当教員に修正を依頼しています。シラバスは3月上旬に校了し、3月下旬頃からWebサイト及び教務システムにおいて公開しています。また、1年生については、4月のオリエンテーション時に冊子も配布しています。	
授業計画書の公表方法	https://www.jissen.ac.jp/life/lesson_and_unit/outline.html
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
授業科目における評価は、各学生の学修成果について、あらかじめシラバスに示した授業における到達目標と成績評価の方法・基準に基づき、授業担当教員が総合的に判定することで、厳格かつ適正に実施しています。科目の内容や方法に合わせて、試験によるもののほか、レポートやプレゼンテーション、授業への参加度などの評価方法を設定し、その配分(%)を示しています。	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>成績評価においては、客観的な指標としてGPAを設定しています。</p> <p>GPAは、成績評価を点数(GP)に換算(+A:4、A:3、B:2、C:1、D・欠・失[不合格]:0)し、「履修科目の単位数×GP」の合計÷履修科目の合計単位数(小数点以下第3位を四捨五入)で算出しています。</p> <p>GPAの算出方法については、全学生に配布される履修要項の他、大学Webサイトで公表しています。</p> <p>また、年2回前期・後期の成績発表後に、授業ごとの成績の分布状況の把握を行い、教員間や授業間での評価基準のばらつき等の問題がないか確認しています。各学生のGPAについても、学部・学科等の所属別に成績の分布状況を把握し、評価が適切か点検しています。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>https://www.jissen.ac.jp/life/lesson_and_unit/structure.html</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>卒業の認定については、本学の教育理念に基づき、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を策定し公表しています。ディプロマ・ポリシーでは、「国際的視野」「美の探求」の2つの態度を核に、「研鑽力」「行動力」「協働力」の3つの能力を身につけ、所定の卒業要件単位を修得した者に学位を授与するものとして全学的に定めています。また、各学科においては、更に専門分野に応じた態度・能力等を策定しています。</p> <p>ディプロマ・ポリシーに定める能力については、授業科目の修得の他、本学独自の成長診断テストを実施し、その達成度を測り、学生が成長を実感し、学修意欲を高める取り組みを行っています。</p> <p>最終的な卒業認定は、修得単位数に基づき教授会での判定により、学長が決定します。</p>	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>(文学部) https://www.jissen.ac.jp/learning/bungaku/policy/conferment.html (生活科学部) https://www.jissen.ac.jp/learning/hles/policy/conferment.html (人間社会学部) https://www.jissen.ac.jp/learning/human_sociology/policy/conferment.html</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	実践女子大学
設置者名	学校法人 実践女子学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.jissen.ac.jp/about/information_disclosure/02-01.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.jissen.ac.jp/about/information_disclosure/02-01.html
財産目録	https://www.jissen.ac.jp/about/information_disclosure/02-01.html
事業報告書	https://www.jissen.ac.jp/about/information_disclosure/02-01.html
監事による監査報告(書)	https://www.jissen.ac.jp/about/information_disclosure/02-01.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:2019年度 事業計画書 対象年度:2019年度)
公表方法: https://www.jissen.ac.jp/about/information_disclosure/02-01.html
中長期計画(名称: 対象年度:)
公表方法:

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.jissen.ac.jp/about/information_disclosure/07-01.html

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.jissen.ac.jp/about/information_disclosure/07-01.html

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 文学部
教育研究上の目的 (公表方法: https://www.jissen.ac.jp/about/information_disclosure/07-03.html) (概要) 日本、東洋、西洋の文学、言語、美術の各分野における幅広い学識を授け、現代社会に寄与しうる人材の育成に努めることを目的とします。
卒業の認定に関する方針 (公表方法: https://www.jissen.ac.jp/learning/bungaku/policy/conferment.html) (概要) 言語・文芸・芸術の分野を中心としつつ、表現の観点からは、表現の構造や生成の論理の認識とその実践的技能を獲得し、表現の歴史探究の観点からは、時代の中の特質や創造、展開、変遷の論理等を解明し、表現主体や思潮の観点からは個人の思考や共同社会の思潮の現れを探究します。哲学や宗教等と共に、隣接する文化諸科学、人文諸科学、社会諸科学、思考の諸科学等の幅広い教養を取り込み、現代を生きる個人として、社会と諸環境との望ましいあり方に向けて、責任ある自立した関わりをもてるよう基礎的な素養を修得し、各学科の専門的知識とそれを活用できる技能を身につけ、各学科の所定の単位を修得した者に、「学士(文学)」の学位を授与します。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: https://www.jissen.ac.jp/learning/bungaku/policy/organization.html) (概要) 日本文学(上代～現代)、日本語学、漢文学、日本語教育、イギリス文学・文化、アメリカ文学・文化、英語学、日本美術史、東洋美術史、西洋美術史、美学、博物館学、美術科教育をはじめとして、社会の諸課題に関する広い学識を授け、各々の専門に係る職業に必要な知識と能力の養成を目的として、各学科の専門課程カリキュラムを編成しています。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法: https://www.jissen.ac.jp/learning/bungaku/policy/new_student.html) (概要) 高等学校で十分な基礎学力を身につけていることに加え、積極的にコミュニケーション能力を高め、多文化へのとらわれのない関心を抱くことができる人材を求めます。

学部等名 生活科学部
教育研究上の目的 (公表方法: https://www.jissen.ac.jp/about/information_disclosure/07-03.html)

<p>(概要)</p> <p>食物、栄養、健康、衣服、もの、住まい、ライフスタイル、幼児・保育に関する広い学識を授け、各々の専門に係る職業に必要な知識と能力の養成を目的とします。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.jissen.ac.jp/learning/hles/policy/conferment.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>自然科学、社会科学、人文科学分野の広い教養を土台として、生活を科学的にとらえるための基礎的知識を修得し、各学科の専門的知識と技術を身につけ、社会に貢献できる力を得て、各学科・専攻の所定の単位を修得した者に、「学士（生活科学）」の学位を授与します。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.jissen.ac.jp/learning/hles/policy/organization.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>食物、栄養、健康、衣服、プロダクト、住まい、ライフスタイル、心理、幼児・保育、地域づくり、現代の暮らしと社会の諸課題に関する広い学識を授け、各々の専門に係る職業に必要な知識と能力の養成を目的として、各学科・専攻の専門課程カリキュラムを編成しています。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.jissen.ac.jp/learning/hles/policy/new_student.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>高等学校で十分な基礎学力を身につけていることに加え、自然科学への興味を持ち人々の生活を広く追及し、生活の向上と福祉に貢献する意欲的で向上心のある人材を求めます。</p>

<p>学部等名 人間社会学部</p>
<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法：https://www.jissen.ac.jp/about/information_disclosure/07-03.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>国際化の進展、情報化の進展、社会の成熟化が進むなかで、社会の要請と国民の多様で高度な学びの要求に応える学部教育を目指す。学生が自ら主体的に学び、考え活動できる能力の養成を願い、「共に学び合う共同体」づくりを目指すことを目的とします。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.jissen.ac.jp/learning/human_sociology/policy/conferment.html）</p>

(概要)

人間社会学部は、「人を知り、社会を知り、ビジネスを学ぶ」をモットーに、グローバル化や情報化が進展し、多様化・複雑化・成熟化する21世紀社会において活躍できる女性の育成をめざしています。

そのため、人間社会学部では、全学ディプロマ・ポリシーとして求める内容を含め、以下に掲げる態度と能力を身につけ、所定の単位を修得した者に「学士（人間社会）」の学位を授与します。

<態度>

多様性を受容し、多角的な視点をもって世界に臨む態度【国際的視野】

- ① 豊かなコミュニケーション能力を身につけ、国内外の人々と相互理解と協力関係を築こうとする態度。
- ② 国内外の多様な人間と社会のあり方について理解し、受容し、尊重しようとする態度。
- ③ 国内外で発生している様々な問題の解決に貢献しようとする態度。

知を求め、心の美を育む態度【美の探究】

- ① 人間と社会とビジネスに関して幅広く学ぶことによって、新たな知を創造しようとする態度。
- ② 人間と社会のあり方に関して望ましい価値観を探究しようとする態度。
- ③ 高い倫理観をもって、自己の言動・価値観を批判的に振り返りつつ、行動する態度。

<能力>

学修を通して自己成長する力【研鑽力】

- ① 現代社会の諸課題について常に興味・関心を持ち、学び続けることができる。
- ② 専門的知識とスキルを身につけ、社会人・職業人として活躍することができる。

課題解決のために主体的に行動する力【行動力】

- ① 現代社会における様々な課題について自らテーマを設定し、情報を集め、多角的・総合的に分析することができる。
- ② 課題を解決するために自らアクションプランを策定し、主体的に実践することができる。

相互を活かして自らの役割を果たす力【協働力】

- ① 自己や他者の役割を理解し、他者と協働しながら自らの役割を果たすことができる。
- ② 課題の遂行や解決にむけて、主体的にリーダーシップを発揮することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針(公表方法:

https://www.jissen.ac.jp/learning/human_sociology/policy/organization.html)

(概要)

教育課程編成と教育内容、教育方法、評価方法について、以下のとおり定めます。

教育課程編成

- ① 社会学、心理学、経済学、経営学、法律学、コミュニケーション学、統計学を学部の主な「基礎科目」として設定します。
- ② 1年次は学科に分かれず、全員が一通り必修の「基礎科目」を履修します。その上で、2年次に学科を選択し、専門的な学修を進めます。
- ③ 1年次から4年次まで少人数の「演習科目」を配置します。
- ④ 学部共通の「基礎科目」として「コミュニケーション系科目」を配置します。
- ⑤ 学科や学部の枠を超えて履修が可能な「選択自由単位」(20単位)を設定します。
- ⑥ 全学の副専攻と学部独自のキャリア教育科目を通して、キャリア形成を支援します。

<p>⑦ 社会調査士、認定心理士等の資格取得のための科目を専門教育科目に配置します。</p> <p>教育内容</p> <p>① 1、2年次の「基礎演習」では大学で学ぶためのアカデミック・スキルを修得できるようにします。3、4年の「専門演習」では、専門的な知識と能力を身につけられるようにします。</p> <p>② 2年次以降の「基幹科目」では、段階的・系統的に専門的な知識・スキルを修得できるようにします。</p> <p>③ 「展開・応用科目」では、各学科の専門分野の発展的・応用的な科目を配置します。</p> <p>教育方法</p> <p>① 講義科目では、現代社会の諸課題と最先端の学問動向を分かりやすく講義します。</p> <p>② アクティブラーニングを積極的に取り入れます。</p> <p>③ 演習を通じて、学生のディベート能力やプレゼンテーション能力を高める教育を実施します。</p> <p>④ 学外の企業組織や地域との連携を通じた教育を実施します。</p> <p>評価方法</p> <p>① 学修到達目標及び成績評価の方法・基準に基づいて、客観的かつ公正に評価します。</p> <p>② 客観的・総合的に評価するためにGPAを活用します。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法： https://www.jissen.ac.jp/learning/human_sociology/policy/new_student.html）</p>
<p>（概要）</p> <p>以下の人材を求めます。</p> <p>①英語、国語、地理歴史、公民、数学、情報などの基礎的な学力を身につけた人。</p> <p>②現代の日本社会と国際社会、人間や文化の動向に強い関心を持っている人。</p> <p>③自分の考えをしっかりと持ち、他の人と協働しながら、積極的にリーダーシップを発揮できる人。</p>

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：https://www.jissen.ac.jp/about/information_disclosure/index.html

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	2人	—					2人
文学部	—	27人	10人	3人	4人	9人	53人
生活科学部	—	36人	16人	5人	3人	34人	94人
人間社会学部	—	13人	5人	4人	0人	4人	26人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長				学長・副学長以外の教員			計
0人				363人			363人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： http://gyoseki.jissen.ac.jp					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
各学期ごとに、学生による授業アンケートとそのフィードバックを行うと共に、アクティブラーニングやシラバスの書き方等の授業改善を目的とした研修会等を計画し、実施しています。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
文学部	310人	376人	121.3%	1280人	1495人	116.8%	20人	12人
生活科学部	410人	453人	110.5%	1648人	1932人	117.2%	4人	2人
人間社会学部	200人	220人	110.0%	800人	1014人	126.8%	0人	0人
合計	920人	1049人	114.0%	3728人	4441人	119.1%	24人	14人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
文学部	334人 (100%)	6人 (1.8%)	270人 (80.8%)	58人 (17.4%)
生活科学部	424人 (100%)	2人 (0.5%)	393人 (92.7%)	29人 (6.8%)
人間社会学部	233人 (100%)	0人 (0%)	219人 (94.0%)	14人 (6.0%)
合計	991人 (100%)	8人 (0.8%)	882人 (89.0%)	101人 (10.2%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 日本製鉄㈱、東京都教育委員会、三井食品㈱、全日本空輸㈱、東京海上日動火災保険㈱				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
文学部	338人 (100%)	301人 (89.1%)	8人 (2.4%)	23人 (6.8%)	6人 (1.8%)
生活科学部	430人 (100%)	413人 (96.0%)	5人 (1.2%)	6人 (1.4%)	6人 (1.4%)
人間社会学部	244人 (100%)	226人 (92.6%)	7人 (2.9%)	7人 (2.9%)	4人 (1.6%)
合計	1012人 (100%)	940人 (92.9%)	20人 (1.8%)	36人 (3.6%)	16人 (1.6%)
(備考) ・生活科学部から人間社会学部に転部1名。人間社会学部の入学者数及び卒業者数に計上。 ・その他には、休学による在学期間不足者を含む。					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画については、毎年度講義概要（シラバス）に示しています。シラバスについては、学生の修学に役立つよう具体的な記述をすると共に、第三者チェックを行い、内容・記述等が適正であるか確認しています。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
卒業の認定については、本学の教育理念に基づき、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を策定し公表しています。ディプロマ・ポリシーで定めている「国際的視野」「美の探求」の2つの態度を核に、「研鑽力」「行動力」「協働力」の3つの能力を身につけ、所定の卒業要件単位を修得した者に学位を授与します。				
学部名	学科名	卒業に必要な 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
文学部	国文学科	124単位	有	半期22単位
	英文学科	124単位	有	半期22単位
	美学美術史学科	124単位	有	半期22単位
生活科学部	食生活科学科	124単位	有	半期22単位
	生活環境学科	124単位	有	半期22単位
	生活文化学科	124単位	有	半期22単位
	現代生活学科	124単位	有	半期22単位
人間社会学部	人間社会学科	124単位	有	半期22単位
	現代社会学科	124単位	有	半期22単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.jissen.ac.jp/life/institution/index.html>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
文学部	国文学科 英文学科 美学美術史学科	740,000 円	240,000 円	320,000 円	施設設備費
生活科学部	食生活科学科 管理栄養士専攻	780,000 円	240,000 円	400,000 円	施設設備費、実験実習費
	食生活科学科 食物科学専攻	760,000 円	240,000 円	380,000 円	施設設備費、実験実習費
	食生活科学科 健康栄養専攻	760,000 円	240,000 円	390,000 円	施設設備費、実験実習費
	生活環境学科	760,000 円	240,000 円	360,000 円	施設設備費、実験実習費
	生活文化学科 生活心理専攻	760,000 円	240,000 円	320,000 円	施設設備費
	生活文化学科 幼児保育専攻	780,000 円	240,000 円	360,000 円	施設設備費、実験実習費
	現代生活学科	760,000 円	240,000 円	320,000 円	施設設備費
人間社会学部	人間社会学科 現代社会学科	740,000 円	240,000 円	320,000 円	施設設備費

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 学科ごとに担任制度やアドバイザー制度を設け、学生の修学上の悩みなどに対し、専任教員と随時相談できる環境を整えています。例年夏休み中には、「修学就職支援フェア」を開催し、学生一人ひとりの修学状況、本学の就職状況や就職支援の取り組みを保護者と情報共有し、学生の修学意欲の向上や問題の解決を行っています。さらに、GPAが著しく低く単位の修得状況が悪い場合は、担任（又はアカデミック・アドバイザー）が学生と面談し、適切な履修計画、授業への取り組み方など学生生活上の指導を行います。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 入学後の1年次から卒業後まで手厚い支援のもと、4年次からの就職活動に取り組めるようサポート体制を充実させています。正課外では低学年から1日企業見学会や東京商工会議所主催の東商リレーションプログラムに学生の参加を促し、体験型学習を実施しています。希望の進路に結び付けていくために様々な企業を見学し、社会を知り、実際に働くことを考えてもらう企画です。低学年の学生にも抵抗感なく、考えるよりまずは見て感じてもらうことを優先しています。 大学3年生からは、いよいよ具体的に就職活動の各種講座やセミナー、面談を行っていきます。全員面談は、学生一人ひとりに対応するもので大学3年生から4年生の始めにかけて、スタッフが学生と直接面談をすることでその距離を縮め、学生が相談しやすい環境を作ります。就職活動についての質問や悩みを聞き、円滑な活動ができるようアドバイスをしています。特徴として個人相談を軸に、自己分析から企業研究、エントリーシートや履歴書の書き方や面接まで、就職活動に必要な支援を一人ひとりに目を向け、行っています。そして、学生が社会で花開いて初めて、支援が成功すると考えているため、卒業後も相談できる体制など、入学から卒業後まで、きめ細やかな体制を整えています。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

入学後の支援を考慮し、受験時に特別措置が必要な受験生には入試要項に記載し申請をお願いしています。

入学後は全員が提出する「入学者個人カード」、「健康診断問診票・受診票」に身体障害者手帳保持の有無を記載する欄があり、有の学生には学生総合支援センターまたは保健室が個別に呼び出し、現在の状況と授業及び生活支援について確認しています。また、保健室（保健師、学校医）、学生相談室（カウンセラー、精神科医）等の学内支援体制について説明を行っています。

授業及び生活支援を希望する場合は、所属学科及び関係部署が集まり、保護者同伴のもと打ち合わせを実施し、支援が決定した場合は学長名で学内周知の文書を配付しています。

支援学生には、定期的に状況確認と支援見直しの検討を行っています。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：https://www.jissen.ac.jp/about/information_disclosure/index.html